

地域課題・目指す将来像

地域
課題

- 少子高齢化の進行や、生活様式の変化による公共交通利用者の減少や慢性的なバス運転士不足によりバス路線の維持が困難になっている。
- 区内ではバスの減便・運行終了が相次ぎ、2023年4月に125系統あったバス路線は3年間で102系統まで減少。そのうちコミュニティバス「はるかぜ」も12路線中3路線が運行終了しており、持続可能な交通手段の確保が課題となっている。
- 南北方向を主とした鉄道網を補完するバス網の整備及び維持が課題となっている。

将来像

- コミュニティバス・路線バスの自動運転化により、持続可能な交通手段を確保する。
- 足立区での先行導入を起点として、東京23区への横展開により、運転士不足対策のメリットを早期に発現させる。

推進体制

名称：足立区地域公共交通活性化協議会（地域実装協議会）

地方公共団体	足立区
国（★は現地支援責任者）	国土交通省関東運輸局★ 国土交通省関東地方整備局 内閣官房地域未来戦略本部事務局 警察庁
民間事業者	日立自動車交通グループ 株式会社ティアフォー NTT東日本グループ
大学等	東京電機大学

課題解決に向けた取組

① 自動運転バス【自動運転】

- ・ 実証運行当初から、路線認可を取得した有償での自動運転バス通年運行（レベル2）を開始し、事業性の検証とともに、早期にレベル4自動運転サービスを実装する。
- ・ 産学官による連携協定を締結し、役割分担しながら社会実装に向けて取組むとともに、他自治体とも連携して持続可能なビジネスモデルの確立を目指す。



想定車両

運行ルート及びバス停留所位置

--- 旧はるかぜ7号ルート
● 旧はるかぜ7号バス停

— 自動運転ルート
● 自動運転バス停留所

